この「たより」は秩父市の皆様に、「コミュニティ・スクール」を知ってもらうためのものです。

平成 31 年 2 月 5 日発行
秩 父 市 教 育 委 員 会



秩父市コミュニティ・スクールだより

「**地域とともにある学校**」を目指して

No.13

東日本大震災の体験に学ぶ

昨年度（平成２９年度）県主催のコミュニティ・スクール研修会において、岩手県大槌町（おおつちちょう）の取組を聞く機会を得ました。大槌町は東日本大震災で大きな被害を受けた地域です。

当日は２名の発表者（１名は大槌町教育委員会職員、１名は被災時に大槌町教育委員会に勤務）により、「コミュニティ・スクールと社会に開かれた教育の実践」という演題で講演が行われました。

改めて、大槌町の概要を調べてみると、人口 11,948 人（H30.11.30 現在）、岩手県の沿岸部（三陸）に位置する、漁業を基幹産業とする自然に恵まれた町です。

東日本大震災により、町内の小学校５校中４校、中学校２校中１校が、被災後すぐに再開できないほどの大きな被害を受けました。町全体では、死者 809 人、行方不明者 476 人に上る甚大な人的被害を被りました。（H24.3.31 現在）

学校での教育活動を正常に戻すために、大きな困難があったことは想像に難くありません。しかし、大槌町では地域の未来に大きな展望を持って、単なる復興に止まらない抜本的な改革を行いました。

「ふるさと科」の創設を柱とした大槌町の取組

1. 震災直後の状況
   - ✓ 学習場所が確保できない。
   - ✓ 避難所や仮設住宅での生活とストレス。
     - ➢ 被害を受けなかった体育館をパーティッションで区切って教室にするなど、工夫をしながら復興に取り組んだ。

2. 震災後の課題

(1) 教育環境の復興

(2) 学校だけでは解決できない課題解決への取組
   - ➢ 学校・保護者・地域住民の連携・協働でつくる教育

この「たより」は秩父市の皆様に、「コミュニティ・スクール」を知ってもらうためのものです。

3. 小・中一貫教育の柱として「ふるさと科」を創設

(1) ふるさと科のねらい

大槌町の復興発展を担う人材の育成を目指して、学校・保護者・地域が一体となり 連携・協働して実現していく。

（文部科学省より、教育課程特例校の指定を受けています。）

(2) ふるさと科の活動

- 学校支援コーディネーターの配置
- 地域の団体、漁協、企業等との連携による体験活動の計画と実施
- リーフレットの作成（ふるさと科に関わる人たちによる手作りの教材：「将来に繋がる学び・体験的な学び・地域住民の願い」を基本にした。）

4. 大槌町の取組から学ぶもの

東日本大震災の未曾有の被害により、多くの悲しみや苦しみを背負いながら地域の復興を目指す人々にとって、地域コミュニティの果たす役割と地域の復興の担い手になる子どもたちをどう育てていくかは、大変重要な課題であったと思います。

「ふるさと科」を柱とした大槌町の取組は、これからの地域と学校の在り方を考える上で、また、今後のコミュニティ・スクールの運営に大きな示唆を与えてくれます。(大槌町に正式にコミュニティ・スクールが導入されたのは平成 28 年度です。)

大槌町の取組は、何年かで結果が出るようなものではありませんが、つぎのような成果が報告されています。

- 学習場所の確保が大きな課題になっていたが、子どもの居場所づくりを通して放課後や休日の子どもたちへの支援が震災前より大きな効果を上げている。
- 学校教育の支援団体や社会教育団体が、共通の課題を持って活動するようになり、団体間に緩やかな繋がりができるようになった。

将来の大槌町に思いを馳せながら、私たちの取組にも反映させていくことが大切だと感じています。

最後に、講演の中で印象に残った言葉を記しておきます。

命の大切さを学び、主体的に判断し行動できる人間を育成することが大切である 。

※ 講演の他に、大槌町のホームページを参考にさせていただきました。

秩父市教育委員会学校教育課

電話 0494-25-5228　ホームページ http://www.city.chichibu.lg.jp/1900.html